富山大学附属病院だより

かわら版

第１００号
平成１９年１１月１日発行

（発行）
富山大学附属病院
病院広報室

目　　次

■病院長からのメッセージ　・・・・・・・1
■新任診療科長の紹介・・・・・・・・・・2
■ナースステーションから・・・・・・・・4
■最新医療探訪・・・・・・・・・・・・・5
■選択メニューのすすめ・・・・・・・・・6
■医療サービスの改善に向けて・・・・・6
■地域医療連携室だより・・・・・・・・・7
■イベントコーナー・・・・・・・・・・・8

「ふしぎな木を見つけたよ」
すぎのき学級Ｉ．Ｙ君（小学2年生）の作品

病院長からのメッセージ

病院長　小林　正

富山大学附属病院は病院の大きさ、患者数など、富山県では大きい方に入り、診療・治療だけでなく①人材育成や②研究も行っています。従って、医学生、看護学生や研修中の医師、看護師、薬剤師やその他の技師、更には専門医など高度な知識・技能をさらに高めるため、当病院にて経験を積んでいます。勿論、これらの若い先生を指導する、日本でも有数の優れた先生がいます。研究の中では新しい治療法や診断法についての研究があり、世界に向けて論文を発表しています。特に、和漢薬と西洋の医学の知識を架け橋とするユニークな研究では日本でも有名であります。

本病院には全国から優秀な人材が集まっており、教授は北海道から九州まで公募の上、厳しい選考により選出されています。この「かわら版」にも紹介していますが、東京大学から第一内科の戸邊教授，大阪大学から眼科の林教授が赴任され、現在頑張っておられます。お二人とも非常に優秀な先生ですので楽しみです。

また、病院の新しい施設として、①外来化学療法センターと②職員のお子さんのための保育所を開設しました。外来化学療法センターでは、最近のがんの治療法が進んだお陰で副作用も軽い傾向にあり、多くのがん患者さんに抗がん剤（化学療法）で治療を行っています。センター長の菓子井部長は、大阪市立総合医療センターのがん治療部から赴任された先生で、がんの化学治療の権威です。がんの治療にはセカンド・オピニオン外来も併設しており、がん治療相談支援センターを介して、専門医に紹介していますので、もし不明のことや他病院でかかっていて疑問に思うときにはご利用ください。

慢性の病気には患者さんの友の会があります。糖友会は糖尿病の患者さんの会で、リウマチや酸素を必要とする肺機能の低下されている患者さんのための会もあります。お互いに励ましながら、楽しいひと時を過ごすことも長い療養のためには必要であります。入会等につきましては外来２階にあります看護相談室でお聞きください。

富山大学附属病院は皆さんの病院です。お気づきのことがあれば是非投書などでお知らせ下さい。皆さんのために、良い病院にするのが私どもの責務ですので、ご協力のほどお願い致します。

新任診療科長の紹介

●第一内科

診療科長　戸邊　一之

本年5月1日に、第一内科の教授として就任した戸邉一之と申します。第一内科は、近年急速に増加してきているメタボリックシンドロームや糖尿病などの代謝・内分泌疾患、肺がん・喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎などの呼吸器疾患、リウマチ・膠原病の疾患を診療しております。専門医が個々の患者様の訴えに十分耳を傾け、病態に応じたきめ細かい診療を心がけております。

●患者様が病気を理解し、病気とうまくつき合えるように努めます。糖尿病やリウマチについては、他科の医師やコメディカルと連携し、病気への理解を深めていただくとともに、患者様の日常生活をサポートするための教育入院を推進しております。また外来では慢性閉塞性肺疾患の生活指導や禁煙指導も行っております。

●患者様の全身を診ることに心がけております。高齢の方が多くなり、いくつもの慢性疾患を抱えている方が増えて参りました。また糖尿病やリウマチや呼吸器疾患は、多臓器に合併症が生ずる疾患です。充分な検査を行い、最善の医療を提供できるように努力しております。

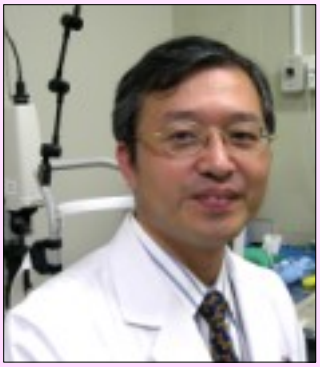
●肺がんの患者様においても、診断から治療まで十分な説明と合意の下に最善の治療を心がけます。精神面のサポートから疼痛のコントロールまで細やかな配慮を努力しております。

●開業医や診療所の先生方と役割分担を行って地域医療に貢献します。患者様には通常は自宅近くの診療所に通院していただき、詳しい検査や入院が必要な場合には大学病院に来ていただきます。病診連携を緊密で総合的により良い医療を患者様へ提供していきたいと思います。

●患者様の体質に合った「オーダーメード医療」を実現するための研究を推進しております。「ひとりひとりの体質に応じた予防と医療」という新しい分野を開拓し、富山から日本、そして世界に向けて予防・早期発見・早期治療のための情報を発信したいと考えています。患者様には採血などで協力頂くことがあるので宜しくお願いします。

●眼　科

診療科長　林　篤志



皆様はじめまして。この 10月1日より附属病院眼科の診療科長に就任いたしました。私は、大阪大学眼科の出身で主に網膜硝子体疾患の治療を専門にしております。昨今、眼科の臨床分野は、大きな進歩を遂げており、現在も進歩し続けています。例えば、白内障手術においては、手術で作る切開創が、以前は11ミリメートルが当たり前でしたが、段々小さくなり、現在ではわずか3ミリ以下で白内障手術ができるようになりました。手術の切開創が小さくなるほど、手術の安全性が高まり、患者さんの負担が軽くなり、視力回復も早くなりました。また、私が専門にしている硝子体手術においても、数年前から、いくつかの疾患に対しては、従来の20ゲージサイズの切開創の約半分である25ゲージサイズの切開創で手術ができるようになり、手術後早期からの社会復帰が可能になっています。また、わが国において、人口の高齢化と共に急速に増加してきている加齢黄斑変性に対しては、光線力学療法の治療が導入され、現在も新しい治療が開発されています。このような最先端の眼科治療は、すでに当院にほとんど導入済みですが、今後ともこれらをいち早く実際の臨床に取り入れ、患者さんに最先端で、かつ快適な眼科治療を提供していくことが、我々、大学病院に従事する者の務めであると考えています。

眼科といいましても、その専門分野は、角膜、前眼部、緑内障、眼炎症、網膜硝子体、斜視弱視、眼腫瘍、眼遺伝、神経眼科など多岐にわたっており、各専門分野における知識、技術ともに膨大であるため、一人の眼科医が眼科臨床をすべて網羅できる時代ではなくなりつつあります。当院におきましても、これまでの治療経験をもとに、専門分野別の外来を開始する予定です。

大学病院として高い専門性の下に、最先端医療を提供するのは当然のこととして、患者さんの視点から今後とも様々に改善を行い、地域に根ざした、患者さんに喜ばれる、質の高い眼科医療を提供していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●神経精神科

診療科長　鈴木　道雄

本年8月1日から神経精神科長を拝命いたしました鈴木道雄と申します。「かわら版」の紙面をお借りして、ご挨拶を申し上げます。

さて、私たち神経精神科では、「精神科疾患の早期診断･早期治療の推進」を基本方針としています。早期診断･早期治療が大事というのは当たり前のようですが、少し説明をさせていただきたいと思います。

神経精神科で治療を行う病気には、うつ病、統合失調症、双極性障害、パニック障害、摂食障害、小児の発達障害、認知症などたくさんの種類があります。いずれも一般に、早く診断し、早く治療を開始した方が、それだけ治りが良いといえます。その理由を考えてみますと、より早期の方が無理なく治療を始めることができ、薬の効きも良いということがあります。また、早期の方が病気によって受ける心理的痛手が少なくてすむ、職場や学校に復帰するときもスムーズにいく、ということもいえるでしょう。もちろん、認知症などの場合は、脳がこうむるダメージが小さいうちに治療できることになります。最近では、うつ病や統合失調症でも、認知症ほどではありませんが、病気を放っておくと、わずかながら脳がダメージを受けるのではないかと考えられるようになってきました。そのような理由で、精神科疾患の早期診断･早期治療を充実させることが、私たちのとても重要な役目であると考えています。

そのために私たちがすべきことはたくさんありますが、まず大切なのは、神経精神科をより受診しやすくすることであると思います。それによって、より早く、症状が軽いうちに、病院においでいただけるようになるでしょう。文字通り垣根を低くする、すなわち、私たちのやっていることが皆様からよく見えるように心がけたいと思います。

県内の他の医療機関とも連携しながら努力をしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

●歯科口腔外科

診療科長　野口　誠

私は、前任の古田　勲先生の後を継いで、本年の７月から、当院の歯科口腔外科の診療科長を担当しております。２年前の９月に１７年間おりました札幌を後にして、こちらに赴任してまいりました。澄んだ空を背にして現れた、立山連邦の荘厳で神々しい姿を、初めて目にしたときの感動は忘れません。神通川の堤から、朝焼けにシルエットを映し出した立山に向かって、手を合わせている人の姿を見受けることがあります。立山信仰とは、生との対極をみつめることによって、よりよく生きることを考えることと伺いました。今もなお、富山の精神文化のなかに息づいていることを実感します。

さて、歯科口腔外科の診療について、少し説明させていただきたいと思います。歯科口腔外科とは、口の働きを障害する病気の治療、または障害された口の働きの回復を担当する科と言えます。非常に大切な口の働きとして、二つあげられます。一つは、われわれが生きるための働き(生存機能)である、物をとらえて食べる働き(摂食、嚥下機能)です。もう一つは、人として充実した人生を送るための文化機能としてのしゃべる働き(構音機能)です。どちらも、われわれがよりよく生きるために非常に大切な働きだということがお分かりいただけると思います。

われわれの診療科が、具体的にはどのような病気を対象としているかですが、一つは、生まれながらにして口の働きが障害されている病気、もう一つは何らかの原因によって口の働きが障害される病気です。前者には、口唇口蓋裂などがあり、後者では口のなかや顎の腫瘍、炎症、外傷(けが)あるいは顎の変形(受け口)などがあります。そして、ものを食べる上で大切な(実はしゃべる上からも大切なのですが)歯の回復には、通常の歯の治療ではそれが困難な場合、人工歯根(デンタルインプラント)が応用されます。

患者様ひとりひとり、お話をよく聞かせていただき、それぞれに合った一番よい治療を施せるように心掛けております。お気軽に受診され、またお知り合いで何か口の病気でお悩みの方がいらっしゃればご紹介いただければと思います。

ナースステーションから　～災害支援で活躍する～

平成１９年３月２５日（日）午前９時４２分石川県能登半島地震が発生し、相次いで７月１６日（月）１０時１３分新潟県中越沖地震が発生しました。当看護部は富山県看護協会からの要請をうけ、石川県輪島市門前町へ川田看護師長、山下副看護師長、本林看護師の３名、新潟県柏崎市へは栗山看護師、山口看護師の２名を災害支援に派遣しました。

災害支援に参加した時期から時間が経過していますが、災害支援活動に参加した所感を皆様にご紹介致します。

被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

●能登半島地震発生に伴う災害支援に赴いて

左から川田さん、本林さん、山下さん

４月１４日（土）～１６日（月）の日程で避難所住民の健康管理、生活支援を目的に活動してきました。具体的には、集団生活における感染症予防に重点をおき、ヘルパーさんと分担し、うがい・手洗い・環境整備、とくに多くの人が接触するドアノブ・手すり・洗面所に注意を払い清拭をおこないました。他にも避難所のコーディネーターも担当しました。本部ミーティングでは、避難所の状況報告と不足している救援物資の調達などです。避難所の退所者・入所者情報の打ち合わせなども市職員、区長としました。

被災地の道下地区は押し潰された家、傾いた家、重機によりすでに更地になっている家のほとんどが古い木造の家であり、住んでいる人の年代を感じさせる光景で心が痛みました。今後、仮設住宅の入居希望者の再調査を行うという時期でしたが仮設住宅に入ると修理費は支給されない。支給される修理費にも限度があるなど問題が山積みでこれからがもっとたいへんだろうなと感じました。

はじめて災害支援に赴き、貴重な体験をさせて頂きました。関わった他の職種の方たちとのチームワークもよく、お互いに役割を分担し、すこしは被災者の方の役に立てたかなと感じています。

（がん治療部　川田　やす子）

●中越沖地震災害看護活動に参加して

私達は８月３日（金）７時頃富山を出発し、北陸自動車道を利用し現地に向かいました。途中対面交通や柏崎市内も家や電柱、柵などが傾いており地震のすごさを見て感じることができました。１０時頃に現地到着し前任者からの引継ぎを受けて早速、活動開始です。活動内容は避難所における避難者の健康管理、相談、避難者の生活支援などです。時期的に脱水や熱中症対策が必要であり、また台風の影響で日中はとても暑く、扇風機や移動クーラー、氷柱などが設置されていました。避難者の平均年齢は８０歳前後であり、実際に脱水傾向といわれている方もおられ、ペットボトルの減る量をみながら水分摂取を促しました。環境整備としてトイレや洗面所掃除、寝床である畳の拭き掃除も行いました。

栗山さん（西４階ＮＳにて）

今回、２泊３日と短い活動でしたがとても貴重な経験になりました。避難者数が比較的少なく、顔や名前を覚えることができ、一人一人の日常生活状況等を把握し対応することができました。また、ボランティアの方々、市や県の職員の方、保健師や他の看護師の方と関わることにより、災害時のそれぞれの対応や役割を学ぶことができました。私達もいつ被災するか分からないため、災害時の対応や役割などの認識を高めていく必要があると感じました。

（西４階病棟　栗山　千佳子）

最新医療探訪　～　がんの放射線治療　～

―　切らずに治す可能性の追求　―

欧米では早くから放射線治療が外科治療、内科治療と並んでがん治療法の三本柱の一つとなっていましたが、日本ではこれまで普及が遅れていました。その理由としては局所に一回の放射線を大量に照射することができないことや治療期間が長いことがありました。しかし、近年のめざましい技術革新と周辺機器の改良により、これらの欠点を克服できるようになりました。ご存知のように早期乳がんでは乳房温存療法が日本でも普及しており、放射線治療による局所制御の有効性は実証されています。

通常、がん拠点病院に設置されている放射線治療装置は1)密封小線源装置、2)高精度放射線治療装置の二種類があります。当院の放射線治療部門では2006年～2008年度の三年計画で順次、最新の装置を導入する計画ですが、ここでは、これらの最新装置の概要と適応について説明いたします。

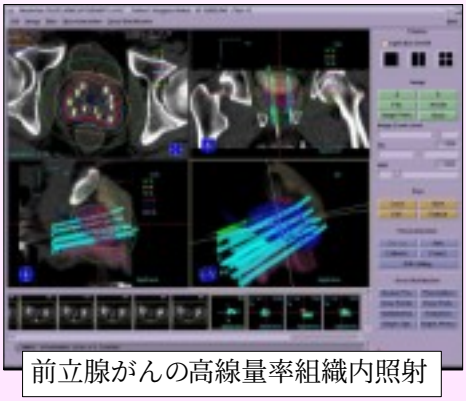
[1] 密封小線源装置（マイクロセレクトロン）

放射性密封小線源を遠隔操作で身体の腔内に挿入してそのガンマー線照射によりがんを治療する装置です。2007年2月に設置しましたイリジウム-192を用いるマイクロセレクトロンは線源が数ミリメートルと小さく、さらに高線量率の照射が可能な装置です。従来の子宮がん、食道がんの腔内照射に加えて、気管支がん、胆管がん、上咽頭がんなどの複雑な走行のがん病変の腔内照射も容易となりました。また、小さな線源と細いワイヤーを生かし、前立腺がん、子宮がん、膣がん、舌がんなどに高線量率組織内照射を施行しています。この照射の最大の利点はがん病巣に集中的に放射線照射ができ、周囲正常組織への被曝低減ができることです。これにより、体外から施行する通常の外部照射と比較し1回の放射線照射量、総線量を上げることが可能です。また、治療期間の短縮化、治療効果増大が期待できます。

近年、増加傾向にある前立腺がんに関しては、通常の外部照射では治療期間は5～7週間ほどかかるのに対し、4日間で終了します。これまで当院では前立腺がん、子宮がん、膣がん、舌がん、気管支がんに施行してきましたが、重篤な副作用も見られず、良好な治療効果が得られています。

マイクロセレクトロン

[2]高精度放射線治療装置(2007～2009年度)



前立腺がんの高線量率組織内照射

放射線治療(外部照射)の理想はがん病巣に正確に十分な放射線を照射し、周囲の正常組織の線量を軽減して有害事象の発生を抑え、治療期間を短縮することにあります。近年のめざましい技術革新により放射線治療装置の改良発展があり、高精度放射線治療装置が開発されました。この装置の導入により、三次元原体照射や強度変調放射線照射が容易となります。このため従来照射が困難な部位に発生したがんにも十分な線量の放射線照射が可能となっています。また、周辺機器の導入により、治療期間の大幅な短縮ができる定位放射線照射を2008年～2009年度中に実施する予定です。最近増加している早期肺がんでは定位放射線照射の有効性が既に実証されております。また、他の臓器の早期がんに対しても欧米では応用されており、日本でも徐々に普及してくることが予想されます。

がんの治療法の選択には日常生活能力と病期(がんの進行度)が重要な因子となっています。病期に関しては当院では既に高解像力の形態画像診断装置(CT,MRI)および放射性ブドウ糖を使用する機能画像診断装置(PET)が稼動しており、より正確な臨床病期診断を提供できる体制になっており、これらの情報を基にして治療法を選択しています。今後はがん治療関連の外科部門、内科部門との協力のうえ、早期がんの患者様に最良の放射線治療を提供していきたいと願っております。

（放射線科　小川心一/瀬戸光）

選択メニューのすすめ　～テレビ付きパソコンでお食事選び！～

栄養管理室

栄養状態の如何によっては、治療の経過にも影響を及ぼしかねないと言われています。栄養管理は食事を召し上がって頂くことから始まります。人は栄養をとるために、食物を口から食べて、胃や腸で消化吸収する。この当然の機能を活用する事が身体を正常にする基本なのです。

当院では、食事を治療の一環としてまた、「富山で一番おいしい病院食」をめざし、『選択メニュー』サービスを行っています。対象は担当医師より、一般食の食事指示がある方で、朝食と昼食の一日２回、年末年始を除く毎日、実施しています。（このサービスに対する特別費用は頂いておりません。）

朝食は、ご飯食とパン食のどちらかを選べます。昼食では、麺類とご飯食、または丼物と定食など、日替わりでいろいろなメニューをご用意致しております。申込方法はとても簡単です。

ベッドサイドのテレビ付きパソコンを「選択メニュー申込画面」に切り替えます。リストバンドのバーコードでお名前が認識されますので、画面上でご希望のメニューを指で触れていただくだけです。**前日の午後１時３０分まで**メニューを選ぶことができます。申込されない場合は、「おまかせメニュー」を提供させて頂いております。

一般食をお召し上がりの入院中の方は、ぜひお楽しみ下さい。

選択メニュー申込画面

医療サービスの改善に向けて

医療サービス課

第1回病院モニター懇談会を開催

参加いただいたモニターの皆様

平成18年度から「病院モニター制度」を実施していますが、今年度も５名の病院モニター（委嘱者；「敬称略」岩井薫、清水健司、高林英紀、津山俊紀、藤田孝」）を委嘱し、第1回病院モニター懇談会が平成19年10月4日（木）に附属病院において開催されました。先ず病院長から、駐車場不足の解消対策、院外処方箋の発行の推進、病院再整備計画等の病院の取組み、患者様からのご要望等について報告がありました。

また，病院モニターの皆様から「外来患者用の車椅子が不足していること。」「友坂地区に土地を求めて駐車場の不足解消をしてはどうか。」「自然環境に恵まれた病院であり、古墳等を散策する遊歩道の整備を」「患者さんの立場で治療の説明を一医師がパソコンに向かっていることが多い。」など、貴重なご意見をいただきました。懇談会終了後、10月1日に開園した附属病院保育所「スマイルキッズ」を施設見学し、散会いたしました。

院内展示品の募集

附属病院では、入院患者様が療養生活を送る上で、少しでも潤いをもって生活していただけるようにボランティア諸団体等の作品の展示をお願いしています。作品は、**写真・絵画・水墨画・書など**何でも結構です。皆様からの展示作品の募集を行っていますので、よろしくお願いいたします。

【作品展示の今後の予定　】

・10月29日～11月19日　写真展示
・11月20日～1月8日　水墨画展示
　（途中作品の入替予定）
・1月9日～2月6日　写真展示

連絡先：医療サービス課　清水
電　話：076（434）7076

地域医療連携室だより　～地域の病院さまと連携して～

患者様をご紹介いただきありがとうございます

（昨年度２０件以上の紹介をいただいた医院）

1	八木産婦人科医院	15	藤澤医院
2	こすぎ皮ふ科クリニック	16	こばやし耳鼻咽喉科クリニック
3	セキひふ科クリニック	17	おおがくクリニック
4	あそうクリニック	18	あめたに歯科医院
5	富川クリニック	19	小林医院
6	大沢野クリニック	20	佐伯クリニック
7	おおむら耳鼻咽喉科医院	21	呉羽矢後医院
8	しんめいこどもクリニック	22	釣谷歯科医院
9	高橋医院	23	柳瀬医院
10	富山市救急医療センター	24	はやほし内科胃腸科クリニック
11	山本内科医院	25	いき内科クリニック
12	女性クリニックWe富山	26	おとぎの森レディースクリニック
13	吉田耳鼻咽喉科医院	27	はやかわ歯科医院
14	海木クリニック	28	津田産婦人科医院

紹介をいただいた医院へ病院長から「感謝状」。中央は八木先生（八木産婦人科医院）

平成18年度「紹介をいただいた病院・医院」

紹介総数　　５，７６１名
紹介率　　５４．９７％

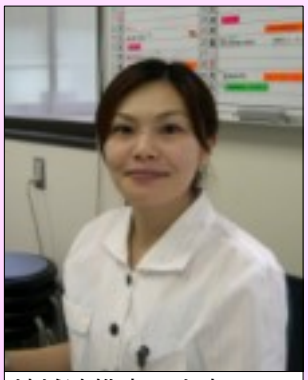
200床以上病院	１１０施設	１，９３２名
県外	８７施設	２６６名
県内	２３施設	１，６６６名
200床未満病院	１１７施設	１，２２２名
県外	４８施設	２６８名
県内	６９施設	９５４名
診療所	４６２施設	２，１６３名
歯科	１１６施設	４４４名

紹介を受けた診療科（上位10位／19科2部）

① 歯科口腔外科　５６１名
② 耳鼻咽喉科　４９０名
③ 第３内科　４３１名
④ 産科婦人科　３９９名
⑤ 整形外科　３５５名
⑥ 皮膚科　３５２名
⑦ 第１内科　３５０名
⑧ 眼科　３４５名
⑨ 泌尿器科　３３９名
⑩ 小児科　３２４名

これからもよろしくお願い致します。

ご存知ですか？　精神保健福祉士



地域連携室の山本さん

みなさんはじめまして、４月より地域医療連携室にて勤務しております精神保健福祉士の山本奈々穂です。

精神保健福祉士は、病院に来られる多くの患者様の中でも精神疾患を患ったことで日常生活に不具合を生じている方の相談に応じ、問題解決や社会復帰に向けてのお手伝いをさせていただいています。例えば、「働きたいけど自信がない」「障害年金って何？私はもらえるの？」「退院後の生活が不安」「自立したい」「福祉サービスにはどんなものがあるの？」「生活費や医療費に困っている」「誰に相談していいかわからない」など生活を送っていく中で心配なことや不安なこと、ちょっと聞きたいことなどの相談に応じていきます。

患者様の希望する生活の実現に向けて、まだまだ力不足ではありますが患者様と一緒に歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。患者様ご本人だけではなくご家族の方もお気軽にご相談くださいね。

地域医療連携室はこちら
電話　076-434-7798

イベントコーナー

●公開市民講座、盛況のうちに終わる

富山市民プラザで開催された「人体の不思議展」に併せて**富山大学附属病院医師による「公開市民講座」**が下記の日程で開催され、多くの県民の皆さんが聴講されました。先生方は、参加された一般の方からの質問にもていねいに答え、実りのある講座となりました。大学病院としては、今後もこのような取り組みに積極的に参加する方向です。

8月１２日（日）	遺伝子の不思議	臨床検査医学	北島　　勲　教授
8月１３日（月）	地震災害時の医療救助	救急災害医学	奥寺　　敬　教授
8月１４日（火）	小児心臓病とたたかう	小　児　科	市田　蕗子　准教授
8月１５日（水）	メタボとたたかう	病　院　長	小林　　正　病院長
8月１６日（木）	がんとたたかう	がん治療部	菓子井達彦　准教授
8月１８日（土）	ピロリ菌って何	第三内科	杉山　敏郎　教授
9月　１日（土）	バランスの不思議とめまい	耳鼻咽喉科	渡辺　行雄　教授
9月　２日（日）	口腔の不思議発見	歯科口腔外科	野口　　誠　教授

熱心に説明される北島先生

●院内保育所「スマイルキッズ」オープン

9月27日、富山大学附属病院院内保育所「**スマイルキッズ**」の開所式が西頭学長、小林病院長等のテープカットにより行われました。この保育所は病院に勤務される職員のお子さんをお預かりする施設として10月1日から業務を開始しています。当院では400名以上の看護師さんをはじめ、多くの女性職員の方が勤務されていますが、少しでも働きやすい職場へと、かねてから計画されていたものです。木のぬくもりが漂う新しい施設に、元気なお子さんの声がこだましています。

病院の西に建つ保育所全景

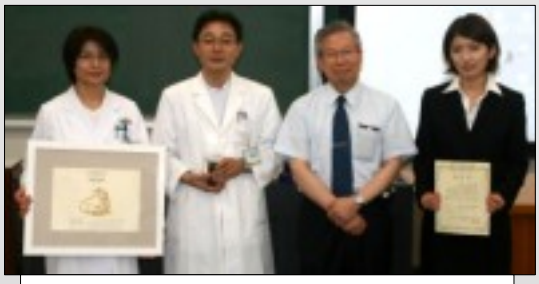
●病院長表彰

平成19年度病院長表彰の表彰式が9月19日に行われ、以下の２名の方へ病院長から記念品が贈呈されました。

（眼科診療教授）**北川清隆先生**・・眼科医局並びに診療への貢献

（栄養管理室長）**矢後恵子さん**・・おいしい病院食への貢献

また、院内保育所「スマイルキッズ」の名付け親である長澤さんに賞状が贈られました。



左から矢後さん、北川先生、小林病院長
「スマイルキッズ」の名付け親の長澤さん

●今後の主な行事予定

（病院正面玄関ロビー）

１１月１７日（土）	アンパンマンショウ	財団法人　がんの子供を守る会
１２月初旬～	クリスマス飾り	病院正面玄関ロビーに飾り付け
１２月下旬	病院クリスマスコンサート	富山大学医科薬科管弦楽団

編集後記　「病院交差点」

正面玄関から入ったエレベータ前はまさに「病院交差点」。

受付を終えて診察に向かわれる外来の方、身の回りの荷物をカートに乗せて今日から入院という人。「レントゲンはどこですか？」と尋ねてこられる初診患者さん、整形外科の診療材料を持ってこられる業者の方。病棟へと向かわれる患者さまのご家族、これから仕事という遅出の技師さん。そこは様々な人が行き交う病院交差点。院内でその日を少しでも気持ちよく過ごしていただけるよう、毎朝、心から「おはようございます。」

堅いイメージになりがちな大学病院を、患者さまを第一に考え、できるだけあたたかく接することのできる病院へと、第一線から対応していきます。「病院交差点」はまさにその第一歩の始まりです。　（病院広報室　Ｓ．Ｉ記）